



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月8日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <https://www.duskin.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 大久保 裕行
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 江村 敬一 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 2022年12月8日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有(機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	81,913	2.1	5,300	△16.5	6,640	△11.5	4,533	△12.4
2022年3月期第2四半期	80,213	8.3	6,346	123.7	7,504	89.4	5,175	271.4

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 4,459百万円(△28.3%) 2022年3月期第2四半期 6,222百万円(96.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	91.65	91.61
2022年3月期第2四半期	104.46	104.41

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	194,182	153,044	78.6
2022年3月期	198,055	151,026	76.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 152,674百万円 2022年3月期 150,661百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	30.00	—	53.00	83.00
2023年3月期	—	40.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	41.00	81.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,000	4.2	7,800	△21.2	9,600	△21.4	6,600	△18.8	133.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	50,994,823株	2022年3月期	50,994,823株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	1,467,314株	2022年3月期	1,559,747株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	49,462,496株	2022年3月期2Q	49,541,469株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(第2四半期連結累計期間)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(第2四半期連結累計期間)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年9月30日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)拡大下の厳しい行動制限が緩和され経済活動の正常化に向かい、持ち直しの動きが見られたものの、7月に入りコロナは再拡大し、また急激な円安の進行や原材料価格の高騰等により、依然厳しい経営環境が続きました。ウイズコロナの新たな段階への移行を目指した各種の取り組みが続く一方、ロシア・ウクライナ情勢は長期化し、更に原材料価格は上昇する等、先行きの不透明感は増す状況となりました。

そのような環境の中、長期戦略「ONE DUSKIN」の最終第3フェーズ「中期経営方針2022」(2023年3月期～2025年3月期)のスタートを切った当社は、社会価値の向上と企業としての持続的な成長、双方の実現を目指した取り組みを開始しつつ、原材料価格高騰、物流コストの上昇等に対してお客様への安定的な商品提供継続のため、訪販グループにおいては主力のクリーンサービス事業のレンタル商品、一部の定期補充商品・販売商品のお客様標準価格の改定を7月に実施しました。また、これまで貿易機能及びアジア地域での展開に対する投資の任を担ってきた楽清香港有限公司(以下「ダスキン香港」という。)を解散し、その主な機能を当社に集約することを決議、公表いたしました。

当第2四半期連結累計期間は、全てのセグメントが増収となったことにより、連結売上高は前年同期から17億円(2.1%)増加し819億13百万円となりました。利益面につきましては、訪販グループの価格改定対応費用の計上等により、連結営業利益は前年同期から10億46百万円(16.5%)減少し53億円、連結経常利益は、前年同期から8億63百万円(11.5%)減少し66億40百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期から6億42百万円(12.4%)減少し45億33百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2022年3月期第2四半期)	当第2四半期 (2023年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
連結売上高	80,213	81,913	1,700	2.1
連結売上総利益	37,293	37,756	463	1.2
連結営業利益	6,346	5,300	△1,046	△16.5
連結経常利益	7,504	6,640	△863	△11.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,175	4,533	△642	△12.4

<セグメント毎の状況>

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2022年3月期第2四半期)	当第2四半期 (2023年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	54,181	54,188	6	0.0
フードグループ	19,915	21,359	1,443	7.2
その他	7,688	8,029	341	4.4
小計	81,785	83,577	1,791	2.2
セグメント間取引消去	△1,572	△1,664	△91	—
連結売上高	80,213	81,913	1,700	2.1

(注)各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2022年3月期第2四半期)	当第2四半期 (2023年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	6,465	5,081	△1,384	△21.4
フードグループ	1,751	2,431	679	38.8
その他	538	443	△94	△17.6
小計	8,755	7,955	△799	△9.1
セグメント間取引消去 及び全社費用	△2,408	△2,655	△246	—
連結営業利益	6,346	5,300	△1,046	△16.5

(注)各セグメントの営業利益は、セグメント間の取引を含んでおります。

①訪販グループ

訪販グループは、レントオール事業(日用品・イベント用品等のレンタル)、ケアサービス事業が減収となったものの、クリーンサービス事業、ヘルスレント事業(介護用品・福祉用具のレンタルと販売)等の売上が増加したことにより、売上高は前年同期から6百万円増加し541億88百万円となりました。営業利益につきましては、価格改定対応のための費用計上等により、前年同期から13億84百万円(21.4%)減少し50億81百万円となりました。

訪販グループ主力のクリーンサービス事業は、家庭向け、事業所向けとも売上は増加しました。

家庭向け商品につきましては、リニューアルした「ロボットクリーナーSiRo」の売上が寄与した他、「おそうじベアシック3」(フロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、「MuKuモップクリーナー」のセット商品)の売上が増加し、主力のモップ全体の売上高は増加しました。また、蛇口直結タイプの小型浄水器も好調に推移しました。

事業所向け商品につきましては、空間清浄機「クリア空感」本体、加湿器本体等の売上が減少しましたが、高い衛生対策ニーズの下で、抗菌・抗ウイルス加工を施した高機能のマット売上は増加しました。

ケアサービス事業につきましては、前期東京オリンピック関連の受注があった「サービスマスター」(プロのお掃除サービス)のお客様売上が減少したものの、「メリーメイド」(家事代行サービス)、「ターミニックス」(害虫獣の駆除と総合衛生管理)、「トータルグリーン」(緑と花のお手入れサービス)、「ホームリペア」(住まいのピンポイント補修)のお客様売上は増加しました。

訪販グループのその他の事業につきましては、前年同期に「イベント衛生サービス」の受注増や東京オリンピック関連の受注で大きく売上高が増加したレントオール事業が減収となった他、化粧品関連事業が減収となりましたが、ヘルスレント事業、ユニフォーム関連事業、ライフケア事業(ご高齢者の暮らしのお手伝い)は増収となりました。

②フードグループ

フードグループは、主力事業であるミスタードーナツの全店合計お客様売上が増加し、原材料売上、ロイヤルティ売上が増加したこと等により、売上高は前年同期から14億43百万円(7.2%)増加し213億59百万円、営業利益は前年同期から6億79百万円(38.8%)増加し24億31百万円となりました。

ミスタードーナツは、前期3月に実施した一部商品の価格改定以後も好調を維持しており、来店お客様数、お客様単価とも前年同期を上回り、1店当たりのお客様売上は前年同期を上回りました。更に新規出店等により稼働店舗数が増加したことも加わり、全店合計お客様売上も前年同期を上回りました。商品別に見ますと、当期も商品戦略の中心を成す“misdo meets”は、第1四半期の宇治茶専門店「祇園辻利」に続いて第2四半期は、株式会社BAKEが展開する、焼きたてチーズタルト専門店「BAKE CHEESE TART」、焼きたてカスタードアップルパイ専門店「RINGO」、シュークリーム専門店「クロッカンシュー ザクザク」それぞれの商品をイメージした新商品を発売し、お客様の支持を得ました。またその他では、国産フルーツフィリングを使用した「エンゼルフーツ」、毎秋恒例の「さつまいもド」、「MISDO HALLOWEEN」が売上増加に寄与し、「フルーツティ」や「レモネード」等の新しいドリンク商品も人気を得ました。

フードグループのその他の事業は、とんかつレストラン「かつアンドかつ」が増収となったものの、店舗数が減少したパイ専門店「パイフェイス」が減収となったこと及び2021年11月に連結子会社蜂屋乳業株式会社の全株式を譲渡しアイスクリーム事業から撤退したこと等により、全体では減収となりました。

③その他

国内連結子会社につきましては、前期東京オリンピック選手村の清掃業務の受注があった株式会社ダスキンヘルスケア(病院施設のマネジメントサービス)は減収、前期にリース車両の自動ブレーキ車両への入れ替えが進んだダスキン共益株式会社(リース及び保険代理業)は減収となりました。

海外連結子会社につきましては、楽清(上海)清潔用具租賃有限公司(中国(上海)におけるダストコントロール商品のレンタルと販売)は、コロナ再拡大に伴う上海のロックダウンの影響が大きく減収となりましたが、ダスキン香港は、海外のミスタードーナツ売上が回復したことにより増収、Big Appleグループ(マレーシアを中心にドーナツ事業を展開)も増収となり、全体では前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、その他の売上高は前年同期から3億41百万円(4.4%)増加し80億29百万円となりましたが、営業利益は国内連結子会社の減収影響が大きく、前年同期から94百万円(17.6%)減少し4億43百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,941億82百万円となりました。前連結会計年度末(以下「前期末」という。)と比較して38億72百万円減少しております。その要因は、有価証券が78億7百万円減少したことに対し、投資有価証券が31億26百万円、現金及び預金が14億91百万円増加したこと等であります。

負債残高は411億38百万円となり、前期末と比較して58億90百万円減少しております。その要因は、未払金が22億76百万円、流動負債その他が15億88百万円、未払法人税等が10億34百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,530億44百万円となり、前期末と比較して20億18百万円増加しております。その要因は、利益剰余金が18億79百万円増加したこと等であります。

(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)通期の業績予想(連結・個別)につきましては、2022年5月13日に公表した従来予想を変更しておりません。

なお、修正が必要となった場合は、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,360	24,851
受取手形、売掛金及び契約資産	12,266	11,334
リース債権及びリース投資資産	1,056	1,035
有価証券	30,604	22,797
商品及び製品	8,662	8,993
仕掛品	207	235
原材料及び貯蔵品	1,541	2,130
未収入金	4,994	5,501
その他	1,426	1,674
貸倒引当金	△17	△17
流動資産合計	84,102	78,536
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,362	44,741
減価償却累計額	△29,528	△30,065
建物及び構築物（純額）	14,834	14,675
機械装置及び運搬具	25,123	25,471
減価償却累計額	△17,855	△18,346
機械装置及び運搬具（純額）	7,268	7,125
土地	22,439	22,439
建設仮勘定	325	136
その他	15,399	15,557
減価償却累計額	△10,791	△11,123
その他（純額）	4,607	4,433
有形固定資産合計	49,474	48,810
無形固定資産		
のれん	270	294
ソフトウェア	6,481	5,650
その他	1,393	1,820
無形固定資産合計	8,146	7,765
投資その他の資産		
投資有価証券	46,176	49,303
退職給付に係る資産	2,348	2,335
繰延税金資産	1,601	1,332
差入保証金	5,340	5,324
その他	884	793
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	56,331	59,070
固定資産合計	113,952	115,646
資産合計	198,055	194,182

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,963	6,899
未払法人税等	2,359	1,324
賞与引当金	3,879	3,252
資産除去債務	14	17
未払金	9,136	6,859
レンタル品預り保証金	9,058	8,794
その他	6,594	5,005
流動負債合計	38,005	32,153
固定負債		
長期借入金	1,530	1,321
退職給付に係る負債	5,991	6,110
資産除去債務	611	599
長期預り保証金	873	939
長期未払金	10	10
繰延税金負債	5	4
その他	0	0
固定負債合計	9,023	8,985
負債合計	47,029	41,138
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,091	11,088
利益剰余金	122,401	124,280
自己株式	△4,219	△3,977
株主資本合計	140,625	142,744
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,195	7,333
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	34	354
退職給付に係る調整累計額	2,805	2,241
その他の包括利益累計額合計	10,035	9,929
新株予約権	59	49
非支配株主持分	305	319
純資産合計	151,026	153,044
負債純資産合計	198,055	194,182

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	80,213	81,913
売上原価	42,919	44,156
売上総利益	37,293	37,756
販売費及び一般管理費	30,946	32,456
営業利益	6,346	5,300
営業外収益		
受取利息	68	75
受取配当金	179	194
設備賃貸料	85	90
受取手数料	134	135
持分法による投資利益	179	299
助成金収入	268	75
その他	344	616
営業外収益合計	1,261	1,487
営業外費用		
支払利息	0	0
設備賃貸費用	56	59
その他	46	87
営業外費用合計	103	147
経常利益	7,504	6,640
特別利益		
固定資産売却益	0	3
その他	1	—
特別利益合計	2	3
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産廃棄損	31	24
減損損失	—	30
関係会社清算損失引当金繰入額	—	16
関係会社株式売却損失引当金繰入額	318	—
その他	3	—
特別損失合計	353	72
税金等調整前四半期純利益	7,153	6,571
法人税等	1,962	2,014
四半期純利益	5,190	4,557
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	24
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,175	4,533

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	5,190	4,557
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	219	166
為替換算調整勘定	77	204
退職給付に係る調整額	585	△564
持分法適用会社に対する持分相当額	149	96
その他の包括利益合計	1,031	△97
四半期包括利益	6,222	4,459
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,204	4,427
非支配株主に係る四半期包括利益	17	32

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。この変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

①前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
クリーンサービス事業	39,513	—	—	39,513	—	39,513
ケアサービス事業	6,932	—	—	6,932	—	6,932
ミスタードーナツ事業	—	18,403	—	18,403	—	18,403
その他	7,402	1,505	5,262	14,170	—	14,170
顧客との契約から生じる収益	53,848	19,908	5,262	79,019	—	79,019
その他の収益	—	—	1,193	1,193	—	1,193
外部顧客への売上高	53,848	19,908	6,456	80,213	—	80,213
セグメント間の内部売上高 又は振替高	333	7	1,231	1,572	△1,572	—
計	54,181	19,915	7,688	81,785	△1,572	80,213
セグメント利益又は損失(△)	6,465	1,751	538	8,755	△2,408	6,346

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,408百万円には、セグメント間取引消去89百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△2,498百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	79	6	4	—	91
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	234	35	54	—	325

(注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高218百万円(訪販グループ)、35百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高54百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

②当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
クリーンサービス事業	40,020	—	—	40,020	—	40,020
ケアサービス事業	6,728	—	—	6,728	—	6,728
ミスタードーナツ事業	—	20,494	—	20,494	—	20,494
その他	7,105	856	5,578	13,540	—	13,540
顧客との契約から生じる収益	53,853	21,350	5,578	80,783	—	80,783
その他の収益	—	—	1,130	1,130	—	1,130
外部顧客への売上高	53,853	21,350	6,708	81,913	—	81,913
セグメント間の内部売上高 又は振替高	334	8	1,320	1,664	△1,664	—
計	54,188	21,359	8,029	83,577	△1,664	81,913
セグメント利益又は損失(△)	5,081	2,431	443	7,955	△2,655	5,300

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,655百万円には、セグメント間取引消去16百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△2,671百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	42	6	5	—	55
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	219	21	52	—	294

(注)当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高209百万円(訪販グループ)、21百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn.Bhd.ののれん残高52百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。